

NEW

福岡歯科学園広報誌

ニュー ソフィア

SOPHIA

2006.JAN

Vol.14 No.1

(第49号)

FUKUOKA SHIKAGAKUEN



初冠雪の飯盛山(福岡市西区)

CONTENTS

理事長・大学長

年頭挨拶 ————— 2

本田福岡歯科大学長を再任 ——— 3

COLLEGE NEWS
上海交通大学口腔医学院を訪問 ——— 4

FROM PARENTS
保護者からのメッセージ ————— 5

FROM THE ALUMNI
ASSOCIATION ————— 6
同窓会だより

HI FROM CLINICS
クリニックからこんにちは ————— 7

平成18年度入試日程
(大学院・大学・短大) ————— 8
ヤンゴン歯科大学との国際交流

『ニュー ソフィア』は福岡歯科学園
ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.fdcnet.ac.jp>

福岡歯科学園

理事長・大学長 年頭挨拶

平成18年1月4日体育館において田中健藏理事長、本田武司福岡歯科大学長から次のとおり年頭挨拶(要旨)があった。



「中期構想の実現に努力」

理事長 田中 健藏

新年明けましておめでとうございます。世の中の動きは大変に激しく、いろんな面での改革が進められています。文明、宗教の問題を含め、多くの困難な課題が提起されています。私共は、そのような社会環境のもとで、建学の理念を思いおこし、私共皆で作った中期構想の実現に努力したいと思います。今年は、

第一に、口腔医学の学問体系を確立し、社会、学界、医療界の理解、協力を得よう努力する。

第二に、認証評価機関による第三者評価を受ける。大学は平成18年度に大学基準協会、日本高等教育評価機構の評価を受け、福岡医療短期大学、医科歯科総合病院は、平成19年度に評価を受ける準備をする。

第三に、教育の面では、実習重視型教育、チュートリアル教育、Evidence-based dentistryを目指して学生が意欲をもって勉学するよう、教育カリキュラムの改変を行う。歯科医師国家試験の上位定着を目指し、歯科衛生士試験の100%合格を継続し、共用試験対策を充実する。

第四に、研究の活性化のために、大学院の拡充整備に務め、大学院生の奨学制度を充実する。学術フロンティア研究センターの充実を図り、COEを獲得する。教育・研究費の重点配分を行い、科研費獲得など、外資の導入に努力する。

第五に、病院の患者増を図り、学生の診療参加型臨床実習及び歯科医師臨床研修を充実させる。また、診療の責任体制を確立し、情報公開に務め、近接診療科の開設に努力する。歯科医師臨床研修医の他、医員等の処遇を検討し、人材育成に努める。介護老人保健施設、介護老人福祉施設は地域の保健・福祉への貢献だけでなく教育・研究の場として一層活用する。

第六に、教職員の考課制度の確立と処遇への反映を図り、職員が明るく楽しい職場環境をつくり、その職務を全うし、学園の活性化に寄与することを目指す。教職員の質の向上、能力の向上のため、学会・研修会等への積極的派遣を含めて、人材育成に努め、事務の効率化を図る。

以上を重点目標としたいと思います。

今年も引き続き、教職員が一体となって、明るく楽しい学園を作り、厳しい倫理観としっかりした価値観、それに目的意識を持って、学生が意欲をもって勉学し、同窓生が誇れる母校を目指したいと思います。

皆様、元気で頑張りましょう。



「教員と学生の距離を縮めよう」

福岡歯科大学長 本田 武司

新年明けましておめでとうございます。皆様方はご家族の皆様方と共に、良いお正月をお迎えのことと存じます。また、年頭に当たりそれぞれに今年の目標をお立てになっておられることと思います。

ご存知のように、本学では既に一部改訂された中期構想と、口腔医学の確立を目指した将来構想が発表されてお

りますが、当然のことながら、これら構想の早期実現に向けた努力が皆さん方の目標の中にも十分に織り込まれていることと思います。是非、今からでもこれら構想の早期実現に向けて皆さん方と一緒に努力をしていきたいと思っておりますので、宜しくご協力の程をお願い致します。

今年から歯科医師臨床研修及び共用試験が本格的に実施されると共に、年内に大学基準協会及び高等教育評価機構による認証評価を受ける予定も立てております。これらについては現在、皆さん方全員にご協力を頂いて着々と準備が進められております。

昨年成績不振であった国家試験も大変気になるところですが、大学院学生の増員も含めもっと教員と学生の距離を縮めることによって、これら問題に対応できるのではないかと考えています。そこで、今年は助言教員制度を見直して教員が積極的に学生に近づき、教員と学生との一体感を持たせることによって、今以上にモチベーションを上げ、自ら考えて責任ある行動がとれるような学生にするための指導体制を築きたいと考えています。それには、人間形成に効果のあるスポーツを中心としたクラブ活動の活性化を図ったり、昨年初めて実施した学園祭を含む総合イベントや、近隣大学との合同公開講座等に教員とともに学生を積極的に参加させることも有効ではないでしょうか。

今年は色々な制度がスタートする大事な年ですが、私にとりましても学長職を再任させて頂くことになった大変重要な年です。とにかく今年も、教職員全員一丸となって共通の目標達成のために努力すること、そして学生と教員との距離を縮めることによって成績の向上、ひいては大学の発展に結びつくようにしたいと思います。どうか今後ともご協力・ご指導の程を宜しくお願い致します。

最後になりましたが、昨年は理事長先生を始め法人、並びに教職員の皆様方には大変お世話になりました。心からお礼を申し上げます。今年が学園及び皆様方にとりまして本当に良い年でありますように、心からお祈りしまして年頭のご挨拶に代えさせていただきます。

福岡歯科学園中期構想の追加改訂

11月に開催された理事会において、平成16年5月に策定した「福岡歯科学園の中期構想」の一部が追加改訂されました。今回の改訂は、8月に学園役員の改選が行われたことに伴うもので、追加改訂された要点は次のとおりです。

- 福岡歯科大学は、平成18年度に大学基準協会、日本高等教育評価機構の評価を受け、福岡医療短期大学は、平成19年度に日本短期大学基準協会の評価を受ける。
- 意欲のない学生には、将来の進路を含め適切な指導を行う。
- 大学院の奨学制度を検討する。

- 研修医員、病院医員等の処遇を検討し、人材育成に努める。
- 本館、病院棟の改築を検討する。
- 教員、職員の質の向上、能力の向上のため、学会・研修会等への積極的派遣を含めて、人材育成に努める。

平成21年度までの間、教職員は各項目の実現に向けて努力することになります。

当該中期構想の全文は福岡歯科学園HPをご覧ください。

本田福岡歯科大学長を再任

12月に開催された理事会は、1月31日任期満了となる福岡歯科大学長として本田武司現大学長の再任を決定しました。任期は平成21年1月末までの3年間。

本田大学長に二期目の抱負を聞きました。
——再任が決まりましたが。

本田 身の引き締まる思いです。引き続き改革を継続・検証しながら、これまでの3年間にやり残したことを準備してきたことを完成させなさいということでしょう。

——具体的には。

本田 福岡歯科学園の中期構想の実現が中心となりますが、特に国家試験の上位定着、病院の活性化、18年度から必修化される歯科医師臨床研修、共用試験(CBT・OSCE)及び大学認証評価への対応、そして人材育成に重点的に取り組むつもりです。

いずれの項目も私一人の力で出来るものではありません。病院改革にしても、医療従事者だけでなく事務局、学生を含めた全員

のチームワークで患者様サービスに徹底することが必要だと思います。

——福岡歯科大学の理想像とは。

本田 歯学部のみ単科大学であるという特性を生かして、教員と学生の距離をもっと縮めてもらいたいですね。助言教員制度などを見直しながら、態度教育をさらに充実・強化させ、教員と学生がお互いに触発され、背伸びするような雰囲気をつくりたいですね。そのため、学生と教職員一体となって行うスポーツイベントや昨年実施した「健康まるごと福岡歯科学園」のような学生と教員の共同事業を増やすことも考えています。共同事業をやっていくなかで今後、歯学部の学生としての様な態度で何をやっていかなければならないかということ意識してもらえればと思います。

——教員、学生に一言。

本田 教員には教育に対する自負を、学生にはルールとマナーを守る精神を持ってもらいたいですね。



インタビューに答える本田大学長

略歴
昭和40年九州歯科大学歯学部卒。同大学助手、福岡歯科大学講師、助教授を経て平成6年教授に就任。同大附属病院長等を歴任。平成15年2月から福岡歯科大学長。

藤崎局長から厚谷局長にバトンタッチ

藤崎博近氏の退任に伴ない、1月から厚谷彰雄氏が事務局長に就任しました。事務引継ぎ中に新旧両局長からお話を伺いました。



厚谷新事務局長

〈藤崎前事務局長のお話〉

平成14年10月着任当時は、30周年記念式典の準備の真っ最中でした。井手局長の急逝で、引継ぎ無しのぶっつけ本番は大変でした。学術フロンティアの継続決定の手助けや独自の人事考課制度を発足させ、実施できたことなどが強く印象に残っています。本学の事務組織は国立に比べ、職員の数が少ない。その分、個々人の役割が重要であることを認識して少数精鋭で頑張ることだと思います。3年3月、皆さんの素晴らしいアシストで無事役目を終えることができました。ありがとうございました。

〈厚谷新事務局長のお話〉

北海道出身ですが、九州、特に福岡の土地柄、人柄に魅力を感じ、福岡西区に居を移しました。私学の経験は初めてですが、本学には、活気や元気のよさを感じます。最後のご奉公と思い定め、藤崎局長からの引継ぎを踏まえ、田中理事長のご指導の下で、学園発展に少しでも貢献できればと思います。

厚谷彰雄(あつや あきお)局長略歴

昭和41年帯広柏葉高校卒。北海道教育大学等を経て昭和51年文部科学省官房人事課、九州大学人事課長、総務部部長、帯広畜産大学事務局長等を歴任。平成18年1月から福岡歯科学園事務局長。

新教授紹介

いけべつろう
池邊 哲郎



口腔・顎顔面外科学講座
口腔外科学分野

略歴
九州大学歯学部卒。九州大学大学院歯学研究科修了。英国ストレンジウェイ研究所研究員、九州大学歯学部助手、熊本大学医学部助教授を経て、本年11月福岡歯科大学教授に就任。歯学博士。大分県出身。

抱負
口腔外科臨床・研究を通じて、患者様を治療する使命感・責任感とともに、科学的態度、人生哲学にまで踏みこんで若い人々を教育できるように、精一杯努力したいと思っています。

初の3大学合同シンポジウムを開催

11月26日、福岡歯科大学で地下鉄七隈線沿線の中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学による「食と健康」をメインテーマに初の「3大学合同シンポジウム」が開催されました。シンポジウムでは「知っていますか歯周病の恐怖—せまりくる生活習慣病」をサブテーマとし、各大学の専門分野を生かして福岡歯科大学・坂上竜資教授、福岡大学・安西慶三講師、中村学園大学・今井克己助教授による講演が行われました。講演後、会場に集まった180人の参加者から次々に質問が出されるなど、双方向のシンポジウムとなりました。



「歯周病と糖尿病について」講演中の坂上教授



質問する参加者

第32回福岡歯科大学学会を開催

第32回福岡歯科大学学会は12月18日、福岡県歯科医師会館で開催され、学内外から265名が参加し、一般口演や「歯科医療のデジタル化」に関するシンポジウム他、姉妹校の慶熙大学校・崔榮喆教授らの教育講演などが行われました。なお、今回の学会奨励賞には生化学分野・石橋一成講師と成育小児歯科学分野・福島秀文助手が選ばれました。



上海交通大学口腔医学院を訪問

11月21日から11月23日まで、本田大学長を団長とする教職員5名が学生・教員の相互訪問の時期や交流内容について協議するため、中国上海市の上海交通大学口腔医学院(上

海第二医科大学口腔医学院から校名変更)を訪問しました。今後は学生だけでなく、教員も含め共同研究をも視野に入れた交流を進めていく予定です。



交流について打合せ



学生実習を見学

学内の吹き付け アスベスト等の調査と対応

文部科学省や福岡県、福岡市等から学内施設の吹き付けアスベスト等の使用状況について調査依頼があったことを受け、本学園では直ちに実態調査を行いました。

その結果、講堂等の天井や壁の一部から微量のアスベストが検出されましたが、専門機関において飛散状況を調査したところ、空気中の濃度は、最も厳しい環境省の安全基準値以下であることが確認されました。

しかし、本学園では健康への影響を考慮して、10月31日から該当箇所を立入禁止にするとともに、速やかに除去工事等を行うこととし、工事は12月20日から開始され、平成18年3月8日に完了する予定です。

文科省の補助金が内定

文部科学省の平成17年度私立大学教育研究高度化推進特別補助が内定しました。補助の金額については、原則として所要経費(申請額)の約50%です。

氏名(分野・職名)

課題名

【所要経費・計画年度】

1.教育・学習方法等改善支援経費



廣藤 卓雄(総合歯科学分野・教授)

双方向学習支援機能を備えた口腔疾患の画像診断法と治療シミュレーションシステムの開発

【所要経費(申請額) 4,000千円 計画年度 平成15~17年】



湯浅 賢治(画像診断学分野・教授)

自己学習支援のための「ユビキタスWebチューター」システムの開発

【所要経費(申請額) 4,075千円 計画年度 平成16~18年】



尾崎 正雄(成育小児歯科学分野・助教授)

歯牙切削感覚習得のためのバーチャルリアリティ教材の開発

【所要経費(申請額) 4,000千円 計画年度 平成17~19年】



坂上 竜資(歯周病学分野・教授)

臨床教育の高度化と標準化を目指した画像データベースの構築ならびにクリティカルパスの作成

【所要経費(申請額) 4,450千円 計画年度 平成15~17年】



松浦 正朗(口腔インプラント学分野・教授)

インプラント治療の普及に対応した卒前教育におけるマルチメディアの活用

【所要経費(申請額) 6,000千円 計画年度 平成17~19年】



金子 憲章(歯科衛生学科・教授)

歯科衛生士養成教育における高度な臨床基礎実習教育

【所要経費(申請額) 2,304千円 計画年度 平成17年】

2.教養教育改革推進経費



黒水 健治(生化学分野・助教授)

歯学教育における教養教育特別推進計画フェイズII

【所要経費(申請額) 2,475千円 計画年度 平成17~19年】



田中 克江(保健福祉学科・教授)

医療系短期大学における全人的「コミュニケーション教育」の導入

【所要経費(申請額) 1,480千円 計画年度 平成17~18年】

平成17年度 海外研修派遣

*印は発表者を示す。

所属分野	職名	氏名	研修課題	派遣先	派遣期間
総合歯科学	講師	内藤 徹	第2回国際EBDカンファレンス(International Conference on Evidence-Based Dentistry)出席のため The Journal of Evidence-Based Dental Practice 編集会議出席のため	シカゴ(アメリカ)	自:H17.11. 2 至:H17.11. 8
生体工学 成育小児歯科学	教授 大学院	宮崎 光治 *何 陽介	日中歯学医学大会2005共同発表(口頭) (演題名:The effect of Nd:YAG laser irradiation and APF to human enamel surface lesion) 発表者:*何陽介、馬場篤子、宮崎光治、本川渉	上海(中国)	自:H17.11.10 至:H17.11.14
口腔腫瘍学	教授 講師	大関 悟 前田 顕之	ミャンマーにおける医療援助活動・技術指導及び学術調査ならびに大学間姉妹校提携の打合せ	ヤンゴン、マンダレー (ミャンマー)	自:H17.11.27 至:H17.12. 8

保護者からのメッセージ FROM PARENTS



許斐 義彦 = 文

text: Yoshihiko Konomi

「八つの「け」の健康法」

最近、テレビ、新聞等で「健康」「病気」についてのテーマがとり上げられ、ややもすれば脅しと取れる番組が多くあり高視聴率をあげていると聞きます。今までの生活を全て否定され、こんなにすれば体に良い、こんな物を食べたら体のどこに良い等、理想的なことばかり情報提供され、視聴者は大いに惑わされています。ただこのような番組を医学生、歯学生が見て興味を持つことはたいへん良いことと思いますが、専門家となる為の知識としては不足していることを知らなければならぬと思います。講義中に質問されて、すましてテレビ番組での内容を答えている学生が医学生の中にいると聞きました。困ったものですが、いいこともあります。この手の番組の後は患者さんが心配して来院されますので、現役の我々にとってはうれしいことですが…。さて、そこで私が御指導いただきました恩師より勧められた八つの「け」の健康法について御紹介します。①色気(いろけ)→男女の恋や

物や景観に心ときめかして、常に大脳を刺激することができるのは色気である。②カラオケ→海岸や森林の中で大きな声ではっきりとした言葉を出して唄うこと。呼吸器を訓練する。③歩け→体調にあわせて腕を振って大股で行く。④字を書け→字を書くということは指先を動かすことで、手紙でもメモでもよい。⑤汗をかけ→常に努力すること。汚い、きつい、危険なことでも嫌がらずに努力する。⑥旅に行け→新しい環境に接して、精神的にも新鮮で友や風物に接して楽しくなる。⑦恥をかけ→老齢になると若い時と同じようには出来ない事もあり反射神経も衰えてくるので、自然体で失敗しても気にしない。⑧洒落っ気→身だしなみをよくし、品格のある生活が出来ること。まず清潔で、手、口が清掃されていること。

明るく、楽しく、健やかに、しかも心ときめかして日常生活を健康に過ごすために保護者の皆様もはじめられてはいかがでしょうか？



高嶺 明彦 = 文

text: Akihiko Takamine

「いちやりばちょうでえ」

標題は、沖縄の古い格言で、「何かの縁で出会った者は、皆兄弟みたいなものである。」という意味です。

福岡歯科大学に学ぶ学生諸君も、この大学でたくさんの仲間と出会い、共に将来の我が国を背負って立つ立派な歯科医師になるために一生懸命学んでいます。この出会いこそは、「何かの縁で出会った者」であり「皆兄弟みたいなものである」と格言は教えているのです。

大学で学ぶ間には、恩師との出会いも含めて、貴重な、そして将来の財産となる「人との出会い」が数多くあるはずですが。しかも本学の特徴は、卒業した暁には国家資格を取得し、学友のすべてが、歯科医師という同一の職業に従事するという事です。

私達歯科医師を取り巻く環境も、いよいよ厳しさを増してきていますが、こうした同じ学舎で育った者が、団結し共通の目的に向かって、兄弟のような気持ちを持って歩んでいけるなら、これほど素晴らしいことはないと思います。どうぞ卒

業されて、晴れて歯科医師となられても、同じ大学で学んだ仲間と兄弟のように親む心は、決して忘れないでください。

歯科医師として果たすべき社会的な貢献を忘れることなく、「すべては患者さんのために」という医療人としての心を失わないことが重要であることは、言うまでもありません。その上で、同窓として団結して事に当たりましょう。あなたが本当に困ったときに力になってくれるのは、同窓の仲間なのですから。

私も愚息も、幸せなことに本学に育てていただきました。私は、本学の同窓会を日本一の同窓会だと思っていますし、その一員であることを誇りに思い、心から幸せに思っています。どうか、学生諸君も、ご父兄の皆様も、この機会に、もう一度同窓会の存在意義を認識していただきたいと思います。

毛利元就の三本の矢の訓えの通り、一人一人の力は弱くても、力を合わせれば、難関をも突破する力を発揮することができるのです。それが、明るい未来を創る原動力となるのです。

第38回歯学体冬期部門

第38回全日本歯科学生総合体育大会冬期部門(事務主管:日本大学松戸歯学部)のラグビー・フットボール部門が12月23日より28日まで日本大学歯科グラウンド(千葉県松戸市)で開催されました。本学は、24日愛知学院大学歯学部と対戦しましたが、日頃の成果を発揮することができず、惜しくも第1回戦で敗退しました。



がっちりスクラム!(紺白ジャージが福岡歯科大学)

平成18年度 学友会総務委員長決まる



任期満了に伴う福岡歯科大学学友会総務委員長の改選が12月19日行われ、4学年大坪太公さんが総投票数540票中464票(86%)の信任票を獲得し、4月1日付けで平成18年度学友会総務委員長に就任することが決定しました。

レディース会の解散のお知らせ

このたび、諸般の事情によりレディース会を解散するとの申し出が幹事からありましたのでお知らせいたします。

サンシャインシティ、サンシャインプラザ クリスマス・忘年会を開催



職員による劇「ももたろう」

12月18日に介護老人保健施設、同月20日に介護老人福祉施設でクリスマス・忘年会が開催され、入所者とその家族、職員が楽しい一時を過ごしました。



みんなで合唱

From The Alumni Association

同窓会だより

福岡歯科大学同窓会宮崎県支部平成17年度学術講演会報告



日時 平成17年9月3日
場所 ホテルJALシティ 宮崎
テーマ 「小児の咬合育成について」
演者 福岡歯科大学
成長発達歯学講座
成育小児歯科学分野
教授 本川 渉 先生

標題のもとに乳歯の萌出から混合歯列期を経て永久歯列が完成するまでの過程について興味あるご講演を頂きました。要旨については下記のとおりで本会会員及び他大学出身者の先生を含め約40名が講演会に参加しました。

咬合誘導(育成)の処置には、①保隙 ②乳歯の削去法 ③乳歯の抜去法 ④萌出余地の

回復 ⑤開窓術 ⑥埋伏歯の牽引誘導 ⑦限局矯正 ⑧習癖に対する処置などが考えられ、最近では、う蝕の軽症化により予防処置や不正咬合を主訴に来院する小児の割合が増えている。小児歯列では、咬合誘導(育成)は必須であり、複雑な矯正装置を使用して治療することなく、本来、永久歯の萌出時にタイムリーな乳歯の抜歯や簡単な装置を使用して、うまく永久歯を正常な位置に誘導することであると力説された。小児の歯科治療においては広い意味での咬合誘導(育成)定期検診を行なうことの重要性、また永久歯萌出までの歯内療法などのお話は、日常臨床に携わっている参加者の多くに深い感銘と、学生時代のような緊張感を与えた。講演後の懇親会でもの中にあっても数多くの

Suggestionを受けたものと思われま。

ご講演頂いた本川 渉先生に対して深く感謝の念をもって今回の講演報告を終わらせて頂きます。

尚、平成18年度九州歯科医学会は宮崎での開催が決定しています。多くの皆さんのお越しをお待ちしていますので、奮ってご参加ください。

文責 宮崎県福岡歯科大学
同窓会学術理事 濱田 邦朗(10期)



同窓会通信 卒業生研究者名簿について

同窓会常務理事 枡 浩一(3期)

福岡歯科大学も27期の卒業生を出し、母校をはじめ他大学の医局に在籍し研究・教育にご活躍されている同窓生が多数おられます。

そこで同窓会本部では、そのような先生方の研究者名簿を昨年度作成し、同窓会の各支部及び福岡県の郡市区歯科医師会に配布すると共に、「背振23号」に掲載致しました。

名簿作成にあたりましては、単なる大学在籍者の名簿というのではなく、学術講演会への講師依頼の参考に出来る物にしたいとの趣旨で対象を講師以上又は大学卒業10年以上ぐらいの同窓生に致しました。また記載内

容は講師依頼が行い易いように、研究内容や講演できる内容を具体的に記載し、認定医、指導医等も載せております。各支部及び各地の歯科医師会で活躍されている同窓生におかれましては、どうか講師依頼の参考に活用して頂ければと思っております。

また、この名簿は毎年更新し、内容を充実させて行く予定にしております。すでに、掲載されている先生方には内容の更新依頼を、また掲載されていない先生で同窓会本部で把握出来ている先生方には原稿依頼をお願い致しましたが、ご協力をよろしくお願い致します。

また、本部の方で把握出来ていない先生も多数おられると思いますので、原稿依頼が来ない先生方でこのようなテーマでなら講演出来るかと、または研究内容を載せたいと思われる先生は、どうか同窓会本部の方へご連絡して頂き、内容の充実にご協力をお願い致します。

最新のデータは同窓会本部に問合せ頂ければ、最新の名簿をプリントアウトしてお渡し出来る様にしてあります。

今後さらに内容の充実を図り、数年(3~5年)おきぐらいに各支部に配布する予定にしておりますのでご活用をお願い致します。

卒業生トーク 「セカンドビジネス」 比嘉 奈津美(8期)



ほんの少し変わった道を歩んでしまっている。ワインエキスパート、中国酒類鑑定士、日本酒唎酒師。私の持つライセンスである。それらをベースにワインスクールの講師、ワインの国際審査員、中国酒の講演、ディナーセミナー。診療の合間をぬってのセカンドビジネスである。その中でもジャパンワインチャレンジというアジアで一番大規模な、ワインのコンテストの審査員は大きな仕事である。世界各国より約1500本がエントリーしてくる。それを海外審査員と1日一人約100本を6日間連続でテイスティングしてワインの各賞を決定していく。人種、国籍を越え各国の人々とワインを評価していくのはやりがいある仕事である。味覚嗅覚の1つの基準を習得すると何がどのレベルか判定する力がついてくる。経験訓練そして記憶力。一番私にとっての問題は日本語が公用語ではないという現実である。

中国酒に関しても沖縄流通のアジア経済において中国酒は重要らしく、経済関係者から講演依頼がある。近々中国の要人とも同席する予定である。

医療に従事する者としてはむやみにアルコールを勧めるつもりはない。ただ世界に通用する教養としての食事と飲料の知識、パーティー文化における充実した時間を提案したく、忙しく飛びまわっている。これからも続けていくつもりである。でも本当は…ただのアルコール好きなのかもしれない。私自身よくわからない。



同窓会に参加しよう



私は昭和59年に卒業し、保存1研究室(現在 口腔治療学)に7年間在籍いたしました。大学退職後2年ほど勤務医生活を送り平成5年に故郷の鹿児島県隼人町(現在霧島市)で開業しました。開業後12年を経過しましたが、この間に市郡や県歯科医師会の委員等を務め、そろそろ任期が終わりほっとしている現在です。開業医というのは結構孤独であり歯科医同士のつきあいも皆、間を空けており、なかなか本音を語れませんが同窓会は別です。同じ釜の飯を食った仲は話題に事欠きませんし先輩、後輩との交流は楽しいものです。同窓会鹿児島支部の理事をしていることもあり、九州歯科医学大会は連続して出席して九州全県を回り2巡目に入りました。私自身昔話が大好きで忘れてしまった記憶を呼び戻した事に感動を覚えます。漫画『巨人の星』の中で中日の星一徹コーチがアメリカに帰るオズマに『昔話は爺さんになってからせい、常に前を見ている』というフレーズがありますが、数年ぶりに会った同級生との語らひは時間の経過を忘れず。地元の同窓会や九地連などの懇親会にあまり出られてない卒業生の皆さんは是非参加してみてください。きっと何かを得られると思います。

学生時代は無線、軽音楽、釣りなどの文化系クラブに属しており、車やバイク、カメラ等機械いじりが大好きでした。お陰で自院のユニット修理も自分でこなし、ホースの破損などホームセンターで代用品を購入して修理しています。5年程前からラジコンヘリを始めて大会にも出場しました。“年をとってくと仕事に生き甲斐を見いだせる”と以前から思っておりましたが、50前になっても『趣味のための仕事』の毎日です。卒業生も28期生となり同窓会の年齢幅も広がってきましたが講演会の講師やコースのインストラクター、投稿などに福歯大同窓生の名前をよく見かけるようになってきました。着実に進化してきている同窓会に遅れない様、日々の研鑽に励んでいきたいところです。

浜崎 昭裕(6期) =文

text: Akihiro Hamasaki

写真上=はまさき歯科(鹿児島県霧島市隼人町)

写真下=診療の台間のヘリ調整



徒然なるままに



こんにちは。19期の山下国士です。福岡歯科大学を卒業し、在学中よりお世話になっておりました成瀬 悟福岡歯科大学名誉教授の病院で勤務させていただいた後、平成14年9月、私の出身地であります大阪市旭区で開業いたしました。

当時のエピソードですが、開業1ヶ月で成瀬歯科勤務医時代の年間義歯処置件数を超えてしまい地域性の違いを痛切に感じた記憶がございます。昨年度まで大阪市の介護認定審議会メンバーとして参加した経験を活かし高齢者の患者様が気軽に立ち寄りいただけるような歯科医院を目指しております。

また、若年者層の患者様とは私の趣味(この歳でと言われそうですがガンダム…)が接点と成り、そこから異業種交流(会社経営者、医師、教師、会社員、高校生等)がはじまり御来院頂けたケースもありました。現在では幼稚園児の患者様からも「ガンダム先生」といわれております。

小さなお子様向けには治療終了後、頑張った御褒美にアニメ等のキャラクターグッズをプレゼントして、通院が楽しみとなって貰えるよう配慮しております。(私の場合は患者様用の買い出しを兼ねて、自分のガンダムグッズの買い物に行くのが楽しいのでもありますが、...)学生時代の同級生やアメフト部の先輩方からはいつ病院が潰れるかと心配をおかけしていますが、趣味と企業努力を兼ねて何とか頑張っております。(笑)

写真は息子の検診の様子です。子供専門写真館勤務経験のあるスタッフは本当に頼もしく小児患者治療に貢献してもらっております。(あやし方は本当に脱帽です!!)

大阪は九州地区に比べ福岡歯科大学出身者が少なく歯科医師会の会合等で寂しい思いも致しますが、その分福岡歯科大学同窓会大阪府支部の先生方には良くしてもらっており、お世話になりっぱなしです。

最後になりましたが、同窓の先生方の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

山下 国士(19期) =文

text: Kokushi Yamashita

写真上=やました歯科(大阪市旭区)

写真下=息子の歯を検診



平成18年度一般入試以降の入学試験日程

福岡歯科大学			福岡歯科大学大学院 歯学研究科	
区分	一般入試A日程	センター試験利用入試	一般入試B日程	二次募集
募集人員	約46名	約10名	約10名	18名
出願受付期間	H18.1.4(水)~1.27(金)	H18.1.16(月)~2.9(木)	H18.2.17(金)~3.9(木)	H18.2.8(水)~3.7(火)
試験日	2月1日(水)	2月17日(金)	3月11日(土)	3月10日(金)
合格発表日	2月6日(月)	2月22日(水)	3月15日(水)	3月15日(水)
問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 福岡歯科大学学務課入試係 TEL.092-801-1885 FAX.092-801-0427 ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/col ●携帯電話用ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/colhp E-mail:gakumu@college.fdcnet.ac.jp			

福岡医療短期大学・歯科衛生学科			福岡医療短期大学・保健福祉学科					
区分	一般入試A日程	一般入試B日程	一般入試C日程	一般入試A日程	一般入試B日程	一般入試C日程	一般入試D日程	AO入試
募集人員	15名	5名	若干名	10名	若干名	若干名	若干名	20名
出願受付期間	H18.1.4(水)~1.27(金)	H18.2.6(月)~2.23(木)	H18.3.1(水)~3.13(月)	H18.1.4(水)~1.27(金)	H18.2.6(月)~2.23(木)	H18.3.1(水)~3.13(月)	H18.3.17(金)~3.25(土)	12月以降は随時受け付けています。詳細は入試係までお問い合わせください。
試験日	2月1日(水)	2月25日(土)	3月15日(水)	2月1日(水)	2月25日(土)	3月15日(水)	3月27日(月)	
合格発表日	2月7日(火)	3月3日(金)	3月17日(金)	2月7日(火)	3月3日(金)	3月17日(金)	3月28日(火)	
問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 歯科衛生学科入試係 TEL.092-801-0439 / 保健福祉学科入試係 TEL.092-801-0923 / FAX.092-801-4473 (共通) ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/col ●携帯電話用ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/colhp E-mail:gakumuj@college.fdcnet.ac.jp							

特待生・特別奨学生決定

平成17年度第1学年の特待生(福岡歯科大学)および特別奨学生(福岡医療短期大学)が次のとおり決定しました。

【福岡歯科大学】



長尾 拓郎

【福岡医療短期大学】



米本 沙織



平川 恵
(歯科衛生学科)



田中 美帆



井手口 恵子



福永 健治
(保健福祉学科)



菅野 恵美

正門前に信号機設置

11月15日、正門前交差点に待望の信号機が設置されました。



ヤンゴン歯科大学との国際交流

— ミャンマー医療援助活動へ参加 —

口腔・顎顔面外科学講座 口腔腫瘍学分野 大関 悟

今年も11月から12月にかけて、ミャンマーでの医療援助ボランティア活動に行きまして。この活動はNPO法人日本口唇口蓋裂協会(JCPF)の活動として今回で11年目となりますが、昨年10月にヤンゴン歯科大学と福岡歯科大学との姉妹校協定を締結しましたので、今回が両大学間の最初の交流となります。大学からは私と教室の前田顕之講師の2人を派遣していただき、総勢9名のJCPF隊員と現地の口腔外科医と共に首都ヤンゴンと北部の都市マンダレーにて、49例の口唇口蓋裂と5例の口腔腫瘍の手術を行いました(写真1)。

滞在中にヤンゴン歯科大学附属病院の落成記念式典に参列し、ヤンゴン歯科大学名誉教授の称号を盛大なセ



(写真2)ヤンゴン歯科大学名誉教授授与式。中央がヤンゴン歯科大学Ba Myint学長、その左が筆者

レモニーで贈っていただきました(写真2)。ミャンマーの厚生大臣は福岡歯科大学との姉妹校交流を大変期待されておられますので、来年には両大学の教員や学生の学術交流を開始したいと思えます。



(写真1)口唇裂の手術をする前田先生(右)と筆者